1. 大学及び中学柔道選手の得意技習得に関与する要因の比較

○村瀬智彦[1]，出村慎一[2]，井浦吉彦[2]，村松成司[3]，浅見高明[4]
([1]大阪大健康体育部，[2]金沢大教育学部，[3]千葉大教育学部，[4]筑波大体育科学系)

【目的】本研究では，技能水準や経験年数の異なる大学及び中学柔道選手を対象に，投げ技の得意技習得に関与する要因についての調査を行なった．そして，大学柔道選手と中学柔道選手の得意技習得に関与する各要因の関与の程度の比較から，得意技の習得過程における各要因の関与の程度の変化を明らかにした．

【方法】調査対象となった柔道選手は全員全国大会への出場経験を有する大学男子柔道選手368名及び中学男子柔道選手128名であった．調査は質問紙法によって行なった．調査項目の中には回答の矛盾を検出する項目が含まれており，回答に矛盾が認められたデータを削除した結果，分析に用いた対象者は大学及び中学柔道選手でそれぞれ333名と97名であった．調査で調べた要因は，柔道選手自身の特性に関する要因(体格，機能，心理，経験)，技の特性に関する要因及び柔道選手を取り巻く環境要因の合計43要因であった．各柔道選手は，投げ技における得意技名とその得意技選択に各要因がどの程度関与したかについて5段階評価で回答した．各要因ごとに2群の平均値間の差異の検定を行なった．

【結果･考察】柔道選手自身の特性である体格特性では，身長と体型が両者に共通に関与していた．さらに，大学柔道選手では長育に関する特性を含むより多くの体格要因の関与が認められた．また，機能特性全般，心理特性，経験に関わる要因(技の学習順序を除く)は得意技習得において関与し，その関与の程度に技能水準及び経験年数の違いによる差異はほとんど認められなかった．一方，得意技の習得に最も関与の大きな要因は柔道選手自身の特性に関する要因の中で得られた．つまり，その要因は大学及び中学柔道選手においてそれぞれ敏捷性と過去の試合成績であり，中学から大学にかけての得意技の習得過程において敏捷性と過去の試合成績の要因の関与の程度が変化すると考えられる．

技の特性の要因の中で，得意技の習得に関与する要因は大学柔道選手と中学柔道選手で類似していたが，いくつかの項目では両者の間で関与の程度に差異が認められた．特に，大学柔道選手では得意技の習得において崩し方，組み方，姿勢等の技術的特性が考慮されるのに対して，中学柔道選手では技術的特性と余り関係のない技の感触や技の美しさといった要因の関与がより大きかった．

環境要因に関しては，大学柔道選手と中学柔道選手の関与の傾向が類似しており関与の程度にも差異は認められなかった．技能水準や経験年数にかかわりなく指導者の助言が得意技の習得において重要な要因であることが示唆された．